

単元について

●単元目標

(1) Get1

- ・動詞 (give など) +A +B を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。(知・技)
- ・動詞 (give など) +A +B を理解し、それを含む英文を即興で話したり、正確に書いたりする。(思・判・表)

(2) Get2

- ・動詞 (call,make など) +A +B を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。(知・技)
- ・動詞 (call,make など) +A +B を理解し、それを含む英文を即興で話したり、正確に書いたりする。
(思・判・表)

(3) USE Read

- ・ウルルでできることと、してはならないことをまとめるために、ウルルについて書かれたコラムを読んで、要点をおさえる。(知・技)

(4) USE Write

- ・エッセイコンテストに応募するために、行ってみたい国について事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く。(思・判・表)

① 教材観

ここでは、SVOO という2つの目的語をとる文構造を導入する。1つしか目的語をとらない、SVO+to/for の文と対比し理解を深めさせたい。また give や show のほか、make tell buy teach cook も紹介しておき、今後の自己表現につなげたい。次に、SVOC の文構造を導入する。call や make の他に、name keep get などとも紹介し、表現の幅を広げさせたい。USE Read では、観光は基本的に楽しいもので自分本位になってしまう人がいるが、正しく楽しむための心構えとはどのようなものか、という問題提起も行う。USE Write では、主文、支持文、結論文など文章の基本的な構造を学び、自己表現に活用させる。

② 生徒観

このクラスは、「主体的に英語に取り組む態度」がA評価の生徒が4割程度で、B評価が4割、C評価が2割程度となっている。一方、「思・判・表」の評価はA評価が1割、B評価が3割、C評価が6割程度となっている。「知識・理解」はA評価が2割、B評価が4割、C評価が4割程度となっている。またクラスの規律は保たれ、ペア・グループワークも機能している。教師の問いかけへの反応も良い。つまり授業で得た「知識・理解」を復習したり、深めたりすることが苦手で、本当に「使える英語」にはなっていない。本時では、文法的に学習した「知識・理解」を自分の表現として活用する力を向上させたい。

③ 指導観

ここでの主題は「行ってみたい国」である。自分の好みや趣味、興味と行きたい国でできることが合致すると文章が書きやすくなる。まず「本時の目標」である Hana さんが行ってみたい国（ブラジル）を条件英作で完成させることで、自分が本当に行ってみたい国を書くときの練習や足がかりにしたい。本校の2年生にとっては、条件英作でも十分に難しく、教え合いの形式で取り組まなくては、完成できる生徒（A 評価）は3分の1程度になることが予想される。チューターの適切なアドバイスによって残り3分の1（B 評価）程度が本時の目標を達成でき、最後の3分の1はC評価が予想される。つまり教え合い活動を適切に機能させることで、標達成者を5分の4程度にしたい。

●単元の指導計画

第1時 動詞（give など）+A +B を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。

第2時 動詞（give など）+A +B を理解し、それを含む英文を即興で話したり、正確に書いたりする。

第3時 教科書 P.52,P.53 の内容を理解し、簡単な質問に答える。

第4時 動詞（call,make など）+A +B を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。

第5時 動詞（call,make など）+A +B、それを含む英文を即興で話したり、正確に書いたりする。

第6時 教科書 P.54,P.54 の内容を理解し、簡単な質問に答える。

第7時 ウルルについて書かれた記事を読んで、概要を捉える。

第8時 Hana さんが行ってみたい国（ブラジル）を正確な英語で書く。（本時）

第9時 文章の基本的な構造（主文、支持文、結論文）を理解し、自分が行ってみたい国について正確な英語で書く。

本時の授業について

●本時の目標

自分のエッセイ作りに生かすために、Hana さんが「行きたい国」のエッセイを作ってみよう。

●本時の展開

過程	学習活動	指導形態	指導上の留意点	授業ポイント
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動 ・ give me a hand (SVOO) の復習① (5分) ・ give me a hand (SVOO) の復習② (5分) 	一斉 ペア	<ul style="list-style-type: none"> ・ PowerPoint を使った英作 ・ 個人で作った文をペアに出題 (口頭での英作) 	②③
展開 30分	<p>本時の目標</p> <p>自分のエッセイ作りに生かすために、Hana さんが「行きたい国」のエッセイを作ってみよう。</p>			①
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教 P.58,59 の条件英作に取り組む (25分) ・ 教え合い活動の心得3箇条 <ul style="list-style-type: none"> ・ チューターはヒントやポイントを教える (答えだけを見せない、教えない) ・ チューターは同じ ST ばかり教えない ・ ST はヒントやポイントを聞いて考える (答えだけを見ない、聞かない) 	個人 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で考えさせる ・ 教師が確認し、完成した生徒をチューターにする <p><教師の手立て></p> <p>Slow Learner を中心に机間指導する</p> <p>本時の評価</p> <p>A: 課題を完成させて、仲間の課題に適切な手助けを行うことができた</p> <p>B: 課題を全て完成させることができた</p> <p>C: 課題を8, 9割程度完成させることができた</p> <p>CをBにする手立て</p> <p>全体で解答を共有する</p>	③④ ⑥⑧⑨
まとめ (振り返り) 10分	<p>「行きたい国」についての、自分自身のエッセイを完成させる。</p> <p>完成している生徒は、完成していない生徒に適切な手助けを行う</p>	個人 一斉	Slow Learner を中心に机間指導する	③④ ⑤⑥⑧ ⑨

「主体的・対話的で深い学び」のための授業づくり10ポイント

- ①授業のめあてを共有し、見通しを持たせる。
- ②生徒が興味や関心を高めるような工夫をする。
- ③基礎学力の定着を図る場面を作る。
- ④知識・技能を活用する場面を作る。
- ⑤学びが実生活や将来に関わっているということを意識させる。
- ⑥生徒の思考を見守る。
- ⑦授業の振り返りを取り入れる。
- ⑧意見交流や教え合い活動を通して、生徒の思考を広げたり深めたりする場面を作る。
- ⑨板書や発問で教師が生徒の学びを引き出す。